

# 白瀬南極探検隊記念館 自己評価報告書

〈令和 2（2020）年度〉

## 目 次

1. 導入の経緯	p. 1
2. 自己評価の基本的な考え方	p. 1
3. 自己評価会議の実施状況	p. 2
4. 段階評価の基準	p. 2
5. 指標の種類	p. 2
6. 使命	p. 3
7. 目標	p. 3
8. ロジックモデル	p. 4
9. 総合評価	p. 5
10. 評価表	p. 6～ p.12
11. 添付資料	p.13～ p.15



# 白瀬南極探検隊記念館 令和 2（2020）年度 自己評価報告書

## 1. 導入の経緯と目的

当館が自己評価の導入を図る発端は、平成 27 年 2 月に北海道大学大学院文学研究科歴史地域文化学専攻（当時）の大内須美子氏が実施した、「自己評価の現状に関する調査」のアンケートでした。

アンケート回答後平成 27 年 6 月に大内氏がアンケート結果を活用した修士論文「公立博物館の自己評価に関する研究 - 留萌市海のふるさと館の事例を中心に -」に接し、当館等における自己評価に関する導入の可能性を探ることとなりました。そして同時期に、大内氏が募集していたフィールドワークとしての研究協力館に対し、当館を含めたにかほ市内 4 つの博物系施設とともに応募し、氏の協力を得て自己評価を導入する機会を得、数年にわたる大内氏の指導・協力を得て博物館自己評価に取り組みました。

博物館自己評価の取り組みにより市内施設全体の質的向上を図るため、各館において、いま一度施設の使命を明確にし、使命実現のための戦術・事業の組み立てを行います。

ご指導・協力いただいた北海道大学大学院文化多様性講座博物館研究室博士後期課程の大内須美子氏には深甚なる感謝を申し上げます。

## 2. 自己評価の基本的な考え方

優れた施設運営を行うためには、館がどのような目的をもつ施設であるか（使命）を明確にして、今後どのような方向に力を注ぐべきかについて実現可能な目標をたてて絞り込む必要があります。目標達成のための事業計画ごとの指標をつくり、実現に向けて事業を運営します。そして事業の実行後に自己評価をし、その分析結果をまた新しい計画に活かしてゆくという一連の自己評価のサイクルを運用してゆくことにより、事業の運営改善のための課題を明確化し、さらに地域に求められる施設運営が実現できます。

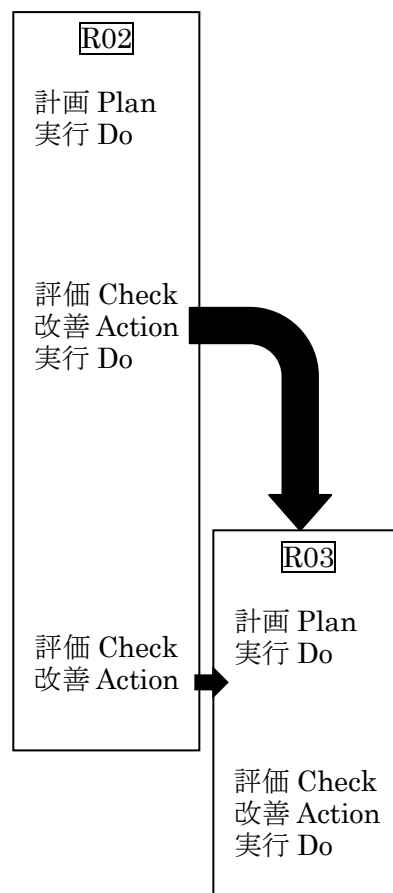
### 3. 年間のPDCAサイクル

令和2(2020)年

- 1～3月 R02 計画（素案）作成
- 4月～ R02 事業執行
- 4～5月 R01 実績評価指標の自己評価・R02 計画作成
- 9月 市議会に R02 決算・事業を報告
- 10月 R02 上半期中間評価⇒改善点・今後の方策  
R01 実績評価を公表（ホームページ）
- 11月～ R02 度市予算案作成
- 12月 R01 実績評価(案)を記念館運営審議会に報告  
R01 実績評価を公表（ホームページ）

令和3(2021)年

- 1～3月 R03 計画（素案）作成
- 4月～ R03 年度事業執行
- 4～5月 R02 実績評価指標の自己評価・R03 計画作成
- 9月 市議会に R02 決算・事業実績を報告
- 10月 R03 上半期中間評価⇒改善点・今後の方策
- R04.3月 R02 実績評価を公表（ホームページ）



### 4. 段階評価の基準

A	優良：目標を超える成果をあげている。 内容が特に優れている。	100%以上
B	良好：目標に対し良好な成果をあげている。 内容に優れた点がみられる。	80～100%未満
C	適正：計画に即して目標を達成している。 内容が適正である。	60～80%未満
D	改善：目標が達成できていない点がある。 もしくは内容の改善が必要である。	30～60%未満
E	見直し：目標がほとんど達成できていない。 抜本的な改善が必要であるか中止する。	30%未満

### 5. 指標の種類

P1	アウトプット指標①	目標値に対する実績の達成率で判断
P2	アウトプット指標②	アンケート結果「とても良かった+良かった」の合計で判断
C	アウトカム指標	アンケート・インタビュー・その他の調査等の総合判断

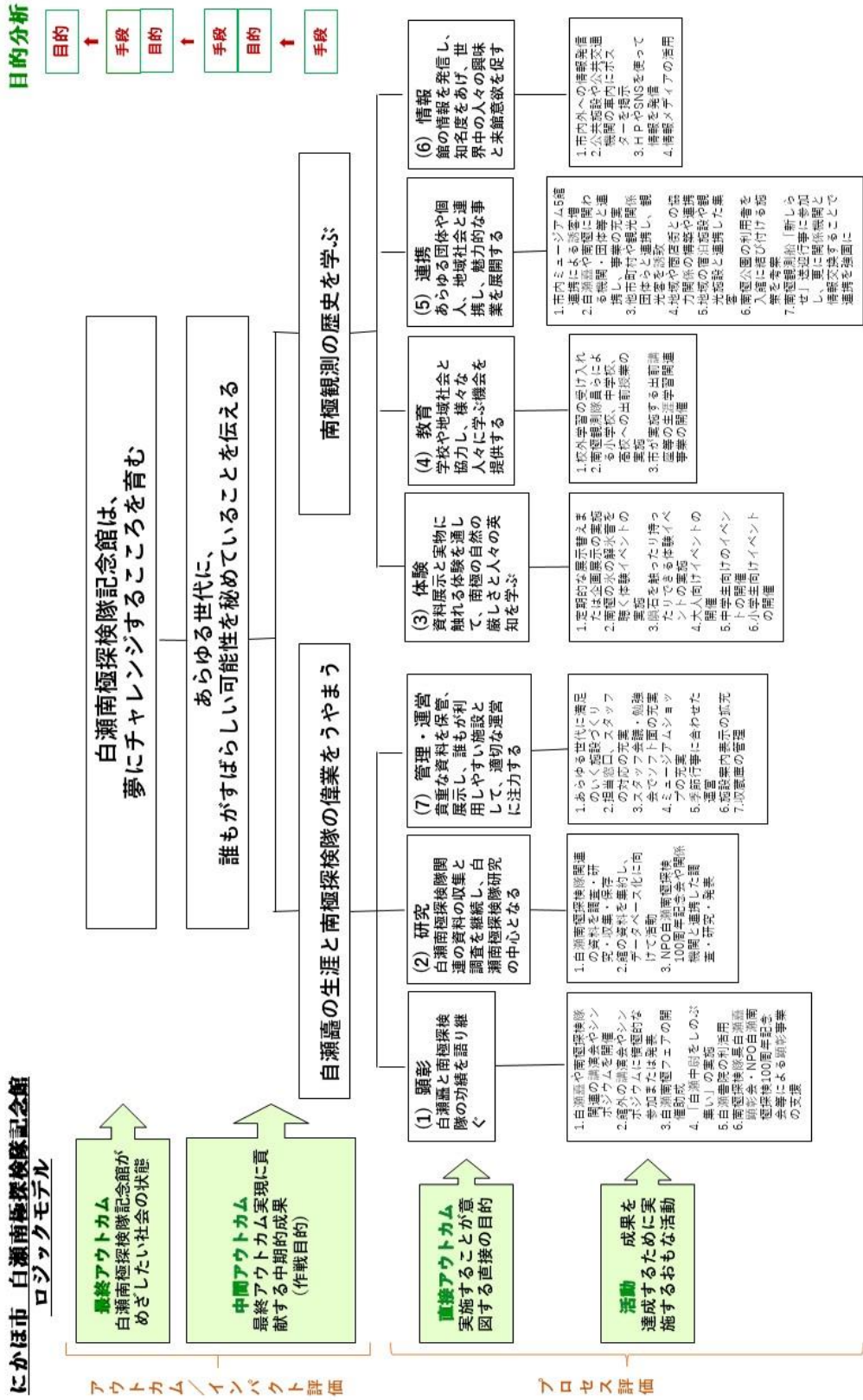
## 6. 使命

白瀬南極探検隊記念館は、  
白瀬矗の生涯と南極探検隊の偉業をうやまい、南極観測の歴史を学ぶことによって、  
あらゆる世代に、だれもがすばらしい可能性を秘めていることを伝え、  
夢にチャレンジする心を育みます。

## 7. 目標

- (1) 顕彰 …… 白瀬矗と南極探検隊の功績を語り継ぐことによって、だれもがすばらしい可能性を秘めていることを伝えます。
- (2) 研究 …… 白瀬南極探検隊関連の資料の収集と調査を継続し、白瀬南極探検隊研究の中心となります。
- (3) 体験 …… 貴重な資料展示と、実物に触れるという体験をとおして、南極の自然の厳しさと人々の英知を学びます。
- (4) 教育 …… 学校や地域社会と協力し、様々な人々に学ぶ機会を提供します。
- (5) 連携 …… あらゆる団体や個人、地域社会と連携し、さらに魅力的な事業展開をします。
- (6) 情報 …… 白瀬南極探検隊記念館情報を発信することにより知名度をあげ、世界中の人々の興味と来館意欲を促します。
- (7) 管理・運営 …… 貴重な資料を保管して展示し、だれもが利用しやすい施設として適切な運営に注力します。

# 8. ロジックモデル



## 9. 総合評価

### 成果

- 年度を通して新型コロナウイルス感染症の影響を受け、全般的に事業やイベントの中止・縮小を余儀なくされたものの、「開館 30 周年記念」として企画展を中心に関連事業を実施した。
- 学校や関係団体、各施設との連携についても各種の制限の中で可能性を探り、オンラインでの事業を試行的に取り入れるなど、新たな連携の形を探ることができた。
- 施設運営面では、臨時休館や感染症対策の入館制限を余儀なくされたことから入館者数が前年度を大幅に下回ったものの、事故の発生もなく、入館者からは一定の満足度の評価を得た。

### 課題

- 新型コロナウイルス感染症の影響はさらに長期間続くことと見込まれることから、市内の博物館施設及び関係機関と連携を強化しながら感染症対策を強化し、来館者の安全・安心を確保することが必要である。
- 感染症対策として3密の回避・人流の抑制・入館制限等が行われ、イベント開催が困難なことから、従来型のイベントの代替としてオンラインを活用して施設の魅力を伝える手段を検討する必要がある。

### 今後の方策

- 調査・研究の成果や時々の話題を取り上げた企画展を中心に、白瀬南極探検隊及び南極に関する情報を広く提供する。
- 今後も継続する新型コロナウイルス感染症対策を取りながら、オンラインによるイベント等新たな形の事業を展開するとともに、入館者の安心・安全を確保するための適切な施設管理・運営を行う。
- 市内の他博物館と連携・情報共有を行いながら、館蔵資料のアーカイブ化の実現を図る。

## 10. 評価表

・目標1 顕彰・・・白瀬轟と南極探検隊の功績を語り継ぐことによって、だれもがすばらしい可能性を秘めて							
事業（事業戦略）	評価指標	R1年度 年間 実績	R2年度 年間 目標値	R2年度 年間 実績	指標 の種 類	評価	評価の目的や意義・備考など
1 白瀬轟や南極探検隊関連の講演会やシンポジウムの開催	1 開催数	3	2	1	P1	D	*白瀬轟の功績について学習し、情報交換する事業で、研究者等による最新の研究成果を学ぶ機会である。
	2 来場者数	125	80	55	P1	C	
	3 来場者満足度	ND	100.0%	未実施	P2	-	
2 館外の講演会やシンポジウムへの積極的な参加または発表	1 参加回数	4	1	4	P1	A	*白瀬轟や南極について館外での情報収集を積極的に行い、一方で情報を発表することで理解を深める。 *コロナの影響で4件中3件はオンラインでの参加。
	2 うち発表回数	4	1	2	P1	A	
3 白瀬南極フェアの開催助成	1 当日入館者数	406	400	未実施	P1	-	*白瀬・南極フェアへの参加は、通常施設に入館する機会がない市民が、白瀬について学び白瀬記念館入館につながる機会である。 *コロナの影響により、今年度は未実施となった。
	2 参加者数	2,700	2,000	未実施	P1	-	
	3 白瀬轟・南極への関心の高まり	41.9%	50.0%	未実施	C	-	
4 「白瀬中尉をしのぶ集い」実施	1 雪中行進参加者数	450	200	14	P1	E	*事業開催日は白瀬隊が大和雪原に到達した日であり、毎年継続して開催すべき行事である。 *コロナの影響により、雪中行進を関係者のみ参加として大幅に規模を縮小した。講演会は中止となった。
	2 講演会聴講者数	300	100	未実施	P1	-	
5 白瀬書院の利活用	1 利用回数	2	2	未実施	P1	-	*書院は白瀬轟の往時の生活ぶりを実感できる場所で、白瀬を学ぶ上で活用すべき施設である。 *コロナの影響により、今年度は未実施となった。
	2 利用者数	161	150	未実施	P1	-	
	3 利用者満足度	90.8%	100.0%	未実施	P2	-	
6 南極探検隊長白瀬轟顕彰会・NPO白瀬南極探検100周年記念会等による顕彰事業の支援	1 共催件数	2	1	1	P1	A	*白瀬顕彰に関する連携事業は参加対象を広げるために必要な事業である。 *NP0100周年記念会へ委託事業により白瀬隊親族調査を実施した。
	2 後援件数	2	2	2	P1	A	
目標1	成果	○新型コロナウイルスの影響により市民や来館者の参加による行事を開催することができなかったものの、オンラインを活用したイベント等で情報発信の機会を得た。					
	課題	○新型コロナウイルスの影響が当面継続することから、集客型の行事の開催は困難である。					
	今後の方策	○オンライン事業を活用することにより、新たな形態の顕彰事業の方策を探る。 ○新型コロナウイルスの影響下でも事業が継続されるよう、対策の強化と運営方法の検討に取り組む。					



・目標2 研究・・・白瀬南極探検隊関連の資料の収集と調査を継続し、白瀬南極探検隊研究の中心となります。

事業（事業戦略）		評価指標	R1年度 年間 実績	R2年度 年間 目標値	R2年度 年間 実績	指標 の種 類	評価	評価の目的や意義・備考など
1	白瀬南極探検隊関連資料を の調査・研究・収集・保存	1 白瀬隊・南極観測 に関する資料調査 の実施件数	4	2	1	C	D	*白瀬隊に関する資料収集・調査は、資料 の散逸を防ぐためにも必要な事業であり、 良好な資料保存の環境確保が必要である。
		2 収蔵庫の管理に関 する総合判断	4.2	10.0	5.0	C	D	
2	館蔵資料の集約、データ ベース化	1 データベース化進 捗率	55.0%	100.0%	55.0%	C	D	*資料のアーカイブ作成を目指すうえで データベース化は必須であるため進捗を 評価する。
3	NPO白瀬南極探検100周年記 念会や関係機関との連携、 調査・研究・発表	1 NPOとの調査・研 究・発表・件数	5	3	1	P1	D	*記念館事業及び白瀬研究の幅を広げるた めに関係団体との連携が必要である。
		2 他機関と連携して 行った調査・研 究・発表件数	3	2	0	P1	E	
目 標 2	成果	○「白瀬南極探検隊員親族等調査・交流事業」をNPO白瀬南極探検100周年記念会に委託事業として実施した。調査の結果多くの成果を得たものの、新型コロナの影響により、親族が集う「交流事業」は中止となり、調査・情報収集の面で課題が残った。 ○収蔵物管理、データベース化については、市内の他博物館施設と共通認識の下方法を検討する話し合いに入った。						
	課題	○白瀬隊遺族等の調査に関しては、今後の資料調査・収集のために、今年度の成果を活かして更なる調査と親族との関係構築の必要がある。						
	今後の方策	○白瀬隊親族等調査を継続し、成果の一部を公開しながらさらなる白瀬隊の情報・資料収集を図る。						

・目標3 体験・・・貴重な資料展示と、本物に触れるという体験をとおして、南極の自然の厳しさと人々の英知を学びます。

事業（事業戦略）		評価指標	R1年度 年間 実績	R2年度 年間 目標値	R2年度 年間 実績	指標 の種 類	評価	評価の目的や意義・備考など
1	定期的な展示替えまたは企画展示の実施	1 展示更新回数	3	2	3	P1	A	*定期的な展示や企画展の開催は、白瀬や南極に関する情報や研究成果を公開する重要な機会である。 来館者のリピーター確保の面からも展示の質・量両面から評価する。
		2 来館者満足度	未実施	100.0%	未実施	P2	-	
2	南極の氷の解氷音を聴く体験イベントの実施	1 実施回数	585	100	未実施	P1	-	*体験型のイベントは入館者の幅を広げるために必要な事業であり、実施の状況と参加者満足度の両面から評価する。 *R2年度は新型コロナ感染防止対策として実施しなかった。
		2 参加人数	4,402	500	未実施	P1	-	
		3 来館者満足度	78.7%	100.0%	未実施	P2	-	
3	隕石を触ったり持ったりできる体験イベントの実施	1 実施回数	803	100	未実施	P1	-	*体験型のイベントは入館者の幅を広げるために必要な事業であり、実施の状況と参加者満足度の両面から評価する。 *R2年度は新型コロナ感染防止対策として実施しなかった。
		2 参加人数	5,632	500	未実施	P1	-	
		3 来館者満足度	71.3%	100.0%	未実施	P2	-	
4	大人向けイベントの開催	1 開催回数	1	0	0	P1	-	*対象の年齢層を絞ったイベントを実施することにより内容の充実を図ることが可能となる。 *R2年度は予定なし。
		2 参加人数	20	0	0	P2	-	
		3 参加者満足度	90.0%	-	未実施	P2	-	
5	中学生向けイベントの開催	1 開催回数	3	1	未実施	P1	-	*対象の年齢層を絞ったイベントを実施することにより内容の充実を図ることが可能となり、特に中学生は職業体験としての意味でも重要である。
		2 参加者数	17	5	未実施	P1	-	
		3 参加者満足度	100.0%	100.0%	未実施	P2	-	
6	小学生向けイベントの開催	1 開催回数	1	1	未実施	P1	-	*対象の年齢層を絞ったイベントを実施することにより内容の充実を図ることが可能となり、特に小学生は白瀬凧学習を通して教育面及び人材育成面でも重要である。 *参加者に対するアンケートを実施できなかった。
		2 参加者数	400	200	未実施	P1	-	
		3 参加者満足度	ND	100.0%	未実施	P2	-	
目標3	成果	○企画展は計画どおり開催したものの、入館者向け及び各年代向けの事業は新型コロナの影響で全面的に実施できなかった。						
	課題	○体験型の展示及びイベントは感染症対策が困難であるため、映像の活用等の代替策が必要である。						
	今後の方策	○企画展示を中心に、新型コロナの影響が継続する中においても、感染対策の強化や参加対象の検討、映像の活用等により、参加者の満足度を維持できる方策を検討する。						

・目標4 教育・・・学校や地域社会と協力し、さまざまな人々に学ぶ機会を提供します。

事業（事業戦略）		評価指標	R1年度 年間 実績	R2年度 年間 目標値	R2年度 年間 実績	指標 の種 類	評価	評価の目的や意義・備考など
1	校外学習等の受け入れ	1 受け入れ 団体数	17	15	9	P1	C	*小・中学生、高校、大学等の校外学習受け入れは、入館者の増加に大きく寄与するほか、市内外へのPR効果も期待できる。
		2 受け入れ人数	415	380	272	P1	C	
2	南極観測隊員等による小学校、中学校、高校への出前授業の実施	1 回数	2	2	1	P1	D	*南極観測隊による学校への出前授業は他の地域では見られないにかほ市独自の事業であり、南極を切り口として様々な分野について学習する機会となる。
		2 対象人数	191	50	79	P1	A	
3	市が実施する出前講座等の生涯学習関連事業の開催	1 実施回数	2	2	1	P1	D	*市内の町内会、職場等へ記念館職員が出向いて講演を行う出前講座は、記念館の研究成果を市民に伝えるとともに、市民の声を聴く貴重な機会である。
		2 参加人数	175	50	79	P1	A	
		3 参加者満足度	-	100.0%	未実施	P2	-	
目標4	成果	○校外学習等については、新型コロナの影響により団体のキャンセルが多かった一方、県内の学校からの修学旅行での来館があり、計画には及ばないものの一定数は確保できた。 ○出前授業、出前講座についても、学校等の需要は弱かったが、関係者の調整を図り各1回を実施し実績を残すことができた。						
	課題	○校外学習等では、県内の学校から県内への修学旅行の需要が当面継続すると見込まれている。 ○出前授業等については、新型コロナの感染状況により実施しにくい状況が当面続くと見込まれている。						
	今後の方策	○校外学習では需要の高い県内学校に向けて積極的なPRを図るとともに、出前授業では感染症対策を万全にしたうえで要望に応えられるよう関係機関との連携維持を図る。						

・目標5 連携・・・あらゆる団体や個人、地域社会と連携し、さらに魅力的な事業展開をします。

事業（事業戦略）		評価指標	R1年度 年間 実績	R2年度 年間 目標値	R2年度 年間 実績	指標の 種類	評価	評価の目的や意義・備考など
1	市内ミュージアム5館連携による誘客	1 連携事業数	2	1	1	P1	A	*他施設との連携は誘客の面で効果が望まれるのみならず、各施設の質の向上につながることを期待される。
		2 連携事業期間の来館者数	1,798	1,000	2,097	P1	A	
2	白瀬島や南極に関わる機関・団体等との連携による事業の充実	1 連携事業数	5	1	1	P1	A	*関係機関・団体との連携は記念館事業の対象者及び事業内容の拡大に必要である。
		2 参加者数	664	50	57	P1	A	
3	他市町村や観光関係団体らとの連携による観光客の誘致	1 来館した旅行会社へのアプローチ数	0	1	未実施	P1	-	*秋田県由利地域振興局を核とした由利地域観光推進機構及び同観光振興会と連携することにより市外・県外への効率的なPRが可能となる。
		2 旅行関連会社への訪問・商談回数	3	1	未実施	P1	-	
4	地域や商店街との協力関係の構築や連携	1 協力のための働きかけ数	3	1	未実施	P1	-	*各種イベント開催に当たっては地元地域の協力が必須で、一方地域貢献の期待に応えるためにも連携が必要である。
		2 連携・協力した事業実施数	4	1	未実施	P1	-	
5	地域の宿泊施設や観光施設との連携	1 集客誘引数	174	50	未実施	P1	-	*地域の観光資源の一つとして市外からの誘客について各種施設との連携が必要なことから評価する。
		2 集客協力施設数	5	5	未実施	P1	-	
6	南極公園の利用者を入館に結び付ける施策の考案	1 考案数	2	2	未実施	P1	-	*近隣施設の利用者を入館に結び付けるための対策が必要である。
7	南極観測船「しらせ」送迎行事等への参加、関係機関と情報交換による連携強化	1 行事参加回数	5	1	未実施	P1	-	*船舶「しらせ」に関わる方々と構築する関係を維持することは記念館事業の充実に生かすため必要な事業である。
		2 関係機関訪問数	10	2	未実施	P1	-	
目標5	成果	○年間を通して市内ミュージアム施設との連携を実施し、イベント開催することでPRや誘客の成果を挙げた。 ○新型コロナの影響により人の移動や職員の出張が制限されたことから多くの連携事業が実施できなかった。 その中でも、試行的にオンラインを活用して他地域の施設との交流事業を行い今後につなげることができた。						
	課題	○新型コロナの感染拡大の状況でも市内・地域内での連携を継続的に行うことが必要である。 ○人の移動の制約下にあっても、首都圏を中心とした関係団体との継続的な連携の維持が必要である。						
	今後の方策	○新型コロナの影響が継続する状況下においても、市内の関係者及び首都圏等の関係団体の連携を維持できる方策を検討する。 ○記念館の充実のため、白瀬隊や南極に関わる団体・個人に関する情報の収集に努める。						

・目標6 情報・・・白瀬南極探検隊記念館情報を発信することにより、知名度を上げ、世界中の人々の興味と来館意欲を促します。

事業（事業戦略）	評価指標	R1年度 年間 実績	R2年度 年間 目標値	R2年度 年間 実績	指標 の種 類	評価	評価の目的や意義・備考など
1 市内外への情報発信	1 観光宣伝媒体の登 載（放映）数	37	35	39	P1	A	*より多くの人に記念館の存在、事業やイ ベントの告知、研究成果の報告を伝えるこ とが必要のため評価する。
	2 パンフレット・D M送付数	893	900	911	P1	A	
	3 パンフレット配布 枚数	1,320	1,000	856	P1	B	
	4 イベントポスター 掲示箇所数	204	200	未実施	P1	-	
	5 施設案内ポスター 掲示箇所数	199	1	未実施	P1	-	
	6 情報媒体を見て来 館した来館者数	37.6%	33.3%	37.5%	P2	A	
2 公共施設や公共交通機関車 内へのポスター掲示	1 公共施設ポスター 掲示数	140	140	未実施	P1	-	*市内、県内を中心により多くの人に記念 会の存在をアピールし新規の来館につなげ る必要があるため評価する。
	2 公共交通機関車内 ポスター掲示数	0	1	未実施	P1	-	
3 HPやSNSを活用した情 報発信	1 HP更新数	21	20	24	P1	A	*ホームページに基本情報を掲載すると ともに、関係者に対してタイムリーに話題を 届けるためSNSの活用が不可欠である。
	2 SNS情報 発信数	99	200	257	P1	A	
	3 SNS「いいね」獲 得数	5,905	5,000	7,570	P1	A	
4 情報メディアの活用	1 回数（白瀬轟+南 極探検隊+記念館 +イベント）	37	20	39	P1	A	*有料広告と併せて積極的にマスコミ取材 への協力により露出を増やすことが、記念 館に対する関心を引き起こすことにつな がる。
	2 イベント事前情報 掲載数	24	20	22	P1	A	
目標 6	成果	○白瀬轟に関する番組や出版物を活用したパブリシティやSNSを中心としたウェブによる情報発信を積極的に実施した。					
	課題	○情報発信の比重がネット経由に移ってはいるものの、確実な集客につながるポスター等紙媒体による効果的なPR方法を検討する必要がある。					
	今後の方策	○マスコミ等媒体の活用をはじめ、SNSを中心としたタイムリーな情報発信を積極的に行う。					

・目標7 管理・運営・・・貴重な資料を保管して展示し、だれもが利用しやすい施設として、適切な運営に注力します。

事業（事業戦略）		評価指標	R1年度 年間 実績	R2年度 年間 目標値	R2年度 年間 実績	指標 の種 類	評価	評価の目的や意義・備考など
1	あらゆる世代に満足いく施設づくり	1 館全体の満足度	84.1%	100.0%	94.0%	P2	B	*施設全体の満足度を高めることはリピーター確保につながり、客観的な数値である入館者数と併せて評価する。 *入館者数はコロナの影響で年度当初の休館もあり前年度8割程度を目標とした。
		2 入館者数	11,508	9,000	6,985	P1	C	
2	徹底した感染症対策	1 入館者の感染症対策の項目数	未実施	4	6	P2	A	*施設内で新型コロナウイルスの感染対策を徹底することは入館者の安心感につながる。
		2 研修会回数	未実施	1	1	P1	A	
		2 密集を避けるための入館者制限の回数	未実施	1	27	P1	A	
3	担当窓口、スタッフの対応の充実	1 応対向上の心がけ「スマイル+ひとことアップ」	6.9	7.5	8.9	C	A	*スタッフによる応対への満足度を高めることは再来館につながるとともにロコミ等による情報の拡散につながる。
		2 受付・展示説明満足度	91.6%	100.0%	未実施	P2	-	
4	スタッフ会議・勉強会でソフト面の充実を図る。	1 スタッフ会議回数	2	2	1	P1	D	*スタッフの育成は記念館の質及び来館者満足度の向上につながる。
		2 研修会・勉強会開催回数	2	2	2	P1	A	
5	ミュージアムショップの充実	1 商品売上収入額（千円）	822	650	583	P1	B	*ミュージアムショップは記念館のイメージに関わり、満足度に付加価値を与える施設であり充実が求められている。 *売上額はコロナの影響で前年度比8割程度を目標に。
		2 来館者満足度	6.4%	50.0%	未実施	P2	-	
6	季節行事に合わせた運営	1 季節に合った館内展示替え回数	0	1	0	P1	E	*館内に季節の変化によりメリハリをもたらし、リピーター確保につながると考えられる。
		2 季節行事等のイベント回数	1	1	2	P1	A	
7	施設案内表示の拡充	1 施設内表示の新設・更新数	1	2	2	P1	A	*館内の動線を確保することは来館者の理解の向上につながるとともに、トイレ等付帯施設の表示を明確にすることは満足度向上につながる。
		2 施設外案内表示の設置数・更新数	3	2	1	P1	D	
目標7	成果	○市内博物館施設との連携により感染対策のガイドラインを作成するなど、徹底した新型コロナ対策を講じたことにより、館内での感染は発生しなかった。 ○新型コロナ対策により臨時休館や入館制限を実施したことにより入館者数等は目標達成できなかったものの、入館者の満足度は一定のレベルを確保した。						
	課題	○施設管理・運営においては、引き続き感染症対策を中心に、入館者の安心・安全の確保が必要である。 ○入館制限下においても入館者満足度及び運営上の課題の把握に努める必要がある。						
	今後の方策	○感染症対策に加え、施設の営繕・改修を適切に行い、入館者の安心・安全を確保する。 ○入館者との接触機会を抑制しながらも入館者に関する情報や満足度把握の機会を確保する。						

## 1 1. 添付資料

### (1) 来館者アンケートの結果・入館者記録まとめ

◆期 間：令和2年6月3日から3年3月31日の間

※「来館回数」「来館のきっかけ」は令和2年10月1日から12月27日まで

◆方 法：新型コロナウイルス感染対策として通年で入館者全員（団体等の場合は代表者）に記入いただいた

◆対 象：6,673人（うち「来館回数」「来館のきっかけ」の対象は940人）

注：表中の%は、対象の人数に対する比率である。

#### 1. 住所

項 目	人数	%	コメント欄
市内	568	8.5	コロナの影響もあり、秋田市を中心に県内からの来館者が72.9%に上った。距離が近い庄内地域からの入館者は相対的に少なかった。
由利本荘市	418	6.3	
秋田市	1,786	26.8	
上記以外の秋田県内	2,091	31.3	
山形県庄内地域	155	2.3	
上記以外の県外	1,655	24.8	

#### 2. 館内の滞在時間

項 目	人数	%	コメント欄
15分未満	278	4.2	45分から1時間程度の層が最多で、平均滞在時間は49分ほどだった。
15-30分	721	10.8	
30-45分	2,004	30.0	
45分-1時間	2,374	35.6	
1時間-1時間15分	802	12.0	
1時間15分-1時間30分	286	4.3	
1時間30分-1時間45分	109	1.6	
1時間45分-2時間	40	0.6	
2時間-	57	0.9	
不明	2	0.0	

#### 3. 来館回数

項 目	人数	%	コメント欄
初めて	621	66.1	2回目以上来館のリピーターは28.6%。
2回目	134	14.3	
3-4回目	88	9.4	
5-9回目	22	2.3	
10回目-	24	2.6	
不明	51	5.4	

#### 4. 来館のきっかけ

項 目	人数	%	コメント欄
新聞、雑誌の情報	96	10.2	観光施設での情報をきっかけとした来館者が全体の3分の1程度に上った。
ホームページ、SNSの情報	198	21.1	
観光施設の情報	315	33.5	
看板を見て	44	4.7	
通りすがり	193	20.5	
その他	56	6.0	
不明	38	4.0	

(2) 来館者インタビューの結果

◆期 間：令和3年2月19日から3月14日の間

◆方 法：館内観覧後の入館者にランダムにインタビュー

◆回答数：100人 注：表中の%は、回答数に対する比率である。

1. 性別

項 目	人数	%	コメント欄
男	52	52.0	
女	48	48.0	

2. 年齢

項 目	人数	%	コメント欄
10代以下	2	2.0	
20～30代	24	24.0	
40～50代	44	44.0	
60代以上	30	30.0	

3. お住まい

項 目	人数	%	コメント欄
にかほ市内	5	5.0	
秋田県内	72	72.0	
県外	23	23.0	

4. 満足度（展示・施設全体について）

項 目	人数	%	コメント欄
満足	70	70.0	満足度（「満足」+「やや満足」）は94%だった。
やや満足	24	24.0	
ふつう	5	5.0	
やや不満	0	0.0	
不満	0	0.0	

5. 入館料に対する感想（展示内容に対して）

項 目	人数	%	コメント欄
高い	0	0.0	「安い」と感じた人が47%おり、満足感も高い。
適当	53	53.0	
安い	47	47.0	
わからない	0	0.0	

6. ご意見・ご感想・ご要望など  
（省略）



白瀬南極探検隊記念館 自己評価報告書  
〈令和 2（2020）年度〉

内容についてのお問合せ先

〒018-0302 秋田県にかほ市黒川字岩瀧 15-3

TEL 0184-38-3765

Mail [shirase@city.nikaho.lg.jp](mailto:shirase@city.nikaho.lg.jp)